

小学校時代の思い出

山桜会元会長・顧問 牟田 実



私が大阪階行社附属小学校に入学したのは、昭和4年4月、学校は現在と同じ敷地で、二階建の木造でした。その頃、片桐武一郎校長は官舎に寝泊まりされており、校訓として「質実・剛健・自治」を掛けられておられた。当時は設備も良く、指導教官の行き届いた大阪一の小学校でした。

小学2年の7月理科教室よりの出火にあい、一夜にして学校は灰塵に帰し、子供心にもどうなることが案じられたが、早速、赤煉瓦の造兵廠の一部を仮教室にして授業はつづけられた。

片桐校長はその間、寝食を忘れて奮闘し、鉄筋コンクリート3階建の設計をはじめ電気、ガス、水道、暖房など付帯工事を含めて30万円の予算で、大阪城畔の一角に聳える教育の殿堂を構築し、昭和6年10月竣工、内部設備を整えて昭和7年4月に落成式をあげることができた。

同じころ大阪市議会は大阪城天守閣の復興を決めて、市民の寄付を募り、昭和6年11月7日完成祝典が行われ、大阪市内

は祝賀ムードに包まれました。生徒たちは引率されて天守閣に登ったことを覚えております。

小学4年の4月より転校生徒が数十名はいりクラスが「い組」と「ろ組」にわかれて私の「ろ組」は新任の根来四郎吉先生が担当となった。その後先生は山田四郎吉と改名され、戦後は大手前中高の教鞭をとり勤続50年のお祝いを教え子250名が集まって盛大に行われた。

昭和9年9月21日、大型の台風「室戸台風」が大阪市を横断し、木造の学校の多くが倒壊し、死者不明者3000人の大被害が出ました。その日は瓦屋根が飛び散る突風でしたが、本校では殆ど無傷でした。今から思うと4年前の火災で校舎を新築していたのが幸いしたのです。

昭和8年夏期の瀬戸内海・北九州地方見学旅行や昭和9年夏期の関東地方見学旅行も楽しい思い出です。今も山桜の紋章のある写真帖を保存しています。

母校の将来を問う

副会長 生川 紳一郎



山桜会の変遷は偕行社に始まり今日の追手門学院まで、90年間に共に歩んでまいりました。その歴史の中、母校の創生期から今日までの重要な学校運営の時期にかかわってきたことは、ご周知の方もおられると思います。私は学院70周年記念の時に、多大な功績を残された、上田常隆会長（当時/毎日新聞社長）が、私共の授業を参観されたり、各行事や朝礼にて、社会教育や礼節の大切さを唱えられていたことを、幼心にも印象に残っております。

数ある私学の中でも、母校や会員に対し、これほど卒業生が力を合わせ目的に邁進するパワーを持ち合わせている校友会は数少ないのではないのでしょうか。その個々のパワーの結集で、本年度は、山桜会90周年記念事業を遂行しようとしているのです。どうして、この時期にと疑問を抱かれる方もおられると思いますが、90周年記念の2年後に学院120周年事業が控えているのです。少子化を迎え私学多難を予想される時代の中、我々母校が21世紀に向け国際社会や時代の流れに即応した社会的有意な卒業生をさらに世に送り出さなければなりません。小学校から中学、高校そして大学を茨木の地に創立し、高校移転と最後に幼稚園という本学の歴史の中でも、引けをとらない重要な分

岐点になるかも知れないのです。100億円近い事業計画になる120周年は『追手門の革命』と言っても過言ではありません。ぜひ、卒業生の皆さん関心を抱いて下さい。この節目の時期に、我々役員一同は、会に多大なる功績を残された諸先輩方はもちろん、そしてこれから初めて参加される方や迷われている方も、ぜひ90周年記念事業に目を向けてください。諸般の事情にて不参加の方も、ぜひご支援やご声援よろしくお願いいたします。

公立の学校では、同窓会を開催するのもままならない状況であると伺っております。それに比べ同窓会を支援するのも山桜会なのです。お世話になった先生や母校に対して恩返しをするためにも、意見を結集し、学院に「母校の将来」を問いかけていくことが重要と考えられ、これからも人間教育・社会教育に貢献することを惜まず、成熟した山桜会が学院とともに繁栄していくことを期待いたします。学院は社会的有意な人材を如何に世の中に送り出すか、また品格の高い子どもたちを育てあげるかが担われた教育思想のもとで伝統が築かれて行くのだと信じております。どうか今後とも山桜会をご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。